

## 第10回子育てにやさしい移動に関する協議会 議事概要

日時：令和7年11月28日（金） 10：00～12：00

場所：国土交通省総合政策局AB会議室（オンライン併用）

---

### 【議事概要】

#### ＜ベビーカー利用の円滑化について＞

事務局から、ベビーカー利用の円滑化に向けた取組、ベビーカーマーク認知度調査の結果について報告。

○ベビーカーマークの認知度について、アンケート調査の質問の選択肢に「見たことはないが、意味は知っていた」とあるが、この選択肢は、ベビーカーマークを、インターネットやポスター等では見たことがあるが、街の中で現物を見たことがないという理解で良いか。

○実際に公共交通機関でベビーカーマークを見たことはないが、マーク自体は知っていて意味も知っていたということであり、ベビーカーマークがどういうものなのか全く知らずに、意味だけ知っていたということではない。アンケートではベビーカーマークを示して聞いている。

#### ＜公共交通ベビーカー利用に関する意識・行動の10年間の変化と日英比較＞

宇都宮大学 大森教授から、公共交通ベビーカー利用に関する意識・行動の10年間の変化と日英比較に関する研究について報告。

○ロンドンも東京も一度政策で取り上げたり調査をしたりすると、経年により慣れが生じ容認の度合いが大きくなるという印象をもっているが、政府の宣伝の効果によるものなのか年月による自然な慣れによるものなのどちらか。

○明確にすることは難しいが、政府だけではなく民間の公共交通事業者も一生懸命情報提供やハード面の改善に取組んでいる結果だと思う。

#### ＜子育て移動応援の取り組みについて＞

各分野における子育て移動応援の取組について、各構成員・オブザーバー（JR 東日本、JR 西日本、日本民営鉄道協会、公営交通事業協会、日本バス協会、日本旅客船協会、日本ホテル協会、認定 NPO 法人びーのびーの）から取組事例について報告。

○公営交通事業協会の取組について、割引を色々な業界で実施していることは良いと思うが、分かりやすくすると良いと感じた。また、バス協会の取組について、これからジェンダー主流化を考える時に、女性雇用について工夫しているということはとてもいいことであるため、機会があれば聞かせていただきたい。

**<子育てしやすい環境づくりのための調査について>**

事務局から、子育てしやすい環境づくりのための調査について説明。

○子育て環境を調査することはとても良いことだと思うが、障害児と一般的な子どもの2種類を調査ができると良いと思うため、次回はそこをぜひ頑張って取組んでいただきたいと思う。

○非常に重要なご指摘だと思うため、今後調査する際にはそのような観点もしっかりと取り入れたい。

**<こどもまんなかアクションの取組について>**

こども家庭庁から、こどもまんなかアクションの取組について説明。

○ジェイエアと一緒に大阪大学と中央大学とエコモ財団で、ハウステンボスまで実際に旅行しチェックをするということを実施している。今心配されていることは、少し目を離した時に水の中に飛び込む等する子どもがいないかというところであり、その対策をどうするかというところである。発達障害の場合には、さらにシビアな問題がいくつもでており、命に関わるのでどうするかという議題も出ている。

○令和7年度に18程度のリレーシンポジウムを開催予定とあるが、今日の議題であるような交通関係の団体や企業が参加したケースはあるのか。

○資料が手元にないため詳細は言えないが、プログラム自体は自治体の方に主体となって考えていただいている、その中で交通関係について、シンポジウムの議題として扱っていただくことも考えられ、その場合は参加していただくことも考えられる。

**<子育て移動応援に関する今後の取組について>**

事務局より、子育て移動応援に関する今後の取組について説明。

**<その他>**

駅や車内等にポスター等を掲出いただくなど、引き続き、各事業者における継続的

な協力を依頼。また、移動等円滑化整備ガイドラインの改訂を報告。

○子育て支援や優遇政策が沢山発表されているが、その直後に妊婦や幼児連れの方への嫌がらせ行為が増えるということが、現場の体感として現在多く寄せられている。このような行為は、当事者の安全を脅かすだけではなく、社会全体の子育て支援の理解を後退させる危険性があるのではないかと考えている。

そこで、今後の取組として実施できるのであれば、妊婦や子育て世代が安心して被害を報告できる相談窓口という仕組みがあれば嬉しい。また、相談窓口や今回のようなアンケートを通じて、被害が発生した場所や時間帯を特定していただき、重点的に対策を講じていただきたい。さらに、ポスターやアナウンスによる啓発、職員による研修、体制管理の強化等を通じて、公共交通機関での啓発や監視の強化を進めていただきたい。

○今後、取組を強化していくという事業者が増えていくと思うが、やみくもに増やすのではなく、国全体や地域全体で有効的な取組を考えられると良いと思う。例えば、個室型のベビーケアルームを様々な駅で見るようになったが、駅によって設置されている個数の必要性を考えることもあるので、今後皆さんで意見を色々調査しながら、全体的に有効的に進めていただきたい。

以上